

保育計画成果報告書

法人名等	NP0 法人チャイルドホーム
施設名	チャイルドホーム武蔵境
報告者（役職）	鈴木 順子（主任）
住所・連絡先	〒180-0023 東京都武蔵野市境南町 5 丁目 6-23 クレスト武蔵野 101
	☎ 0422-26-4722
	E-mail childhome.ms@gmail.com

○タイトル（保育計画）

子どものワクワク感と意欲・集中力を駆り立てる室内遊具と家具（イス）

○主な助成備品

ぱっと組み替えジムテンダー、木製子どもイス（ドイツ製）

1. 保育計画策定の目的

当園は平成28年4月に0、1、2才児定員19名の小規模保育施設として開園しました。保育室はマンションの1階部分のワンルームです。わずか数畳程の園庭とは言えない外あそびスペースがありますが、子ども達が自由に走り回ったり、体を動かすには狭すぎる空間です。幸い、近隣に公園があり、晴れている日は戸外あそびで出かけるのですが、暑さの厳しい夏や雨天時は戸外へ出かけることができず、子ども達の体力が有り余っている現状でした。そのため、外に出られない日は、子ども達が室内を駆け回って発散する傾向があり、職員にとってもストレスの伴う環境でした。

今回、室内用組み立て式のジムの導入は、戸外の天候に左右されずに子ども達の運動量を確保し、また乳幼児期に必要な体幹や四肢の成長発達を促すことを目的としました。

もう一点はドイツ製の伝統技術に基づいて作られた木製イスをあげました。元々開園時に、子ども用のイス（木製）を購入したのですが、素材が軽かったためか、子どもが立ち上がった際、イスが後ろに倒れやすく、ヒヤリとする場面が何度もありました。今回導入したイスは、人間工学に基づいて作られています。背脚が後部に倒れにくい設計となっており、安全性を期待しました。正しい姿勢の保持と本物家具のあたたかなぬくもりの体験が子ども達にとって、落ち着いた作業や食事、集中力アップにつながることを目的として導入しました。

2. 具体的な実施内容

1) 室内器具 ぱっと組み替えジムテnder

<実施計画>

- ・雨天時の室内保育のメニューとして取り込む。
- ・週に2回程度を目安に夕方の自由保育の時間帯に設定する

<実施上の配慮（年齢別）>

0才児	1、2才児
・つかまり立ちの練習ができるようなスペースづくり。 ・歩行することができない子どもに対しては傾斜のあるすべり台をハイハイで登れるように援助する。   左：すべり台を下から腕の力だけでよじのぼろうとしています。 右：つかまり立ちできたよ。 	・発達過程に合わせながら、はしごやすべり台などを組み替える。 ・あそびの中で順番を待つことを学べるような声掛け、配慮をする。 ・ごっこあそびとしての空間も作れるよう、（すべり台の下など）あそびの展開が広がるような声かけに配慮する。  すべり台の下がトンネルに。 この中がお家になったりしています。 

<実施内容>

ジムは何通りにも組み替えができ、すべり台だけを組み立てたり、はしごを登ってすべるパターンで組み立てたり等と、その日の子どもたちの運動量や、保育スペースを加味しながら、設定を変えて使用しました。子どもたちからは、「やりたい！」と自主的に参加しようとする声がいっぱいあがり、子どもたちの主体的なあそびの能力を引き出していました。人気のある遊具となっているため、次々と子どもたちがやってくると、押したり押されたりで危険な場面も多く、保育士が必ず3名程度、そばにつけるように環境を整え、転倒・転落防止に努めました。

2才児を中心にはしごを登ったり、渡ったりしていると、0, 1才児の子どもたちも側に寄ってきて、一緒に登ろうとする姿も見られました。保育士が手足の使い方を教えながら介助すると、繰り返すうちに、クリアしている子どもたちが何人もいました。



はしご渡り。最初は怖がって渡れなかった子どもたちも「みててください！」と自信をもって渡れるようになりました。



段差のあるマットに、はしごをかけて両手両足を使って渡る設定。全身を使いながら渡っています。



「じゅんばんだよ」と声を掛け合いながら、協調性も学んでいる場面

2) 木製子どもイス

<実施計画>

- ・ 1, 2才児の子ども達に対して、購入した木製イスを使用。
- ・ 食事を始め、造形や音楽鑑賞時などの子ども達の反応を観察する。
背筋、体幹のふらつきが座位時に見られていないか。足底がしっかり床についているのかの確認を行う。



<実施内容>

1, 2才児の食事・おやつ時や造形作業時、園内での音楽鑑賞会時などに、イスを使用した。足底が床につかない子に対しては、お風呂マットをカットし、イスの前足部分に差し込んで、高さ調節した。



座り心地がよく、フィット感もあるからか、1, 2才児でも30～40分間はじっと座ってあそびに取り組める子が多い。
左上：ねんどあそび
右上：ピアノとフルートのミニコンサート
左下：夕方のジグソーパズルコーナー

3. その成果と評価

1) 室内器具 ぱっと組み換えテンダー

年齢や発達に合わせて組み立て方を変えて遊ぶことで、身体の各部分を動かし、全身運動を促すことができた。雨天の日など、体力をあり余していた子どもたちが、このジムを導入したことで、室内でも落ち着いて過ごすことができるようになりました。職員にとっても、雨天時の保育で生じるストレスの大幅な改善を見ることもできました。

難しいと思うようなジムの組み合わせ（はしごのぼり、はしご渡りなど）の設定に対しては、2才児がお手本となることで、0、1才児の月齢の子どもたちの挑戦したいという意欲を掻き立て、結果的には保育士の介助があればどの子も、クリアできる程の身体能力の向上を見ることができ、びっくりすることが多かったです。

順番を待つこと、一緒にあそぶ仲間に対する「がんばれ〜」「もう少しだよ」などといった、思いやり声かけが子ども同士にみられ、人間関係のあたたかなやりとりを学ぶことにもつながりました。

2) 木製イス

人間工学に基づいて作られたということが、結果的にイスに座ることへの心地よさを提供できたように思います。子どもたちの様子を見ると、どの子も、背筋をピンと伸ばし、長時間様々なあそびに集中して取り組める場面が増えたように感じます。食事時の立ち歩きも、このイスの導入後、激減したように職員が感じているのも、このイスの導入の成果かもしれません。

4. 今後の課題と展望

ジムの使用がマンネリ化しないように、常に子供たちの発達過程を見極めながら、設定について職員で話しあって活用していきたいと思います。子どもたちのワクワク感が毎日の保育の中にたくさんあるように、また、「できたよ!」という成功体験が沢山うまれるような保育を提供していきたいと考えています。

イスの導入から、子どもたちが、集中してあそびこめるための環境を整えてあげる



ことの大切さを学びました。このことを通して、日々の保育環境の中で、何気なく使っている遊具、おもちゃなど、一つ一つが子どもにどんな影響を与えるかを吟味することの重要性を知りました。

子どもたちの可能性を最大限に引き出していけるよう、これからも職員一同、研鑽していきたいと思います。